

繪本
曹旦臣勲功記

七十五

繪本豐臣勲功記

八編

五

197
90
254

東 京 圖 書 館

和書門

小説類

三六函

六架

七七號

八〇冊

繪本豊臣勅切記八編卷之五

目録

清正魁氷津濱破德居備舟隆景渡海

清正水津子到つて德居の陣を斬顔も岡

清正与隆景同隊攻洞湖謀擒城將

清正使洞湖四將籌久武 付 敗松山勢



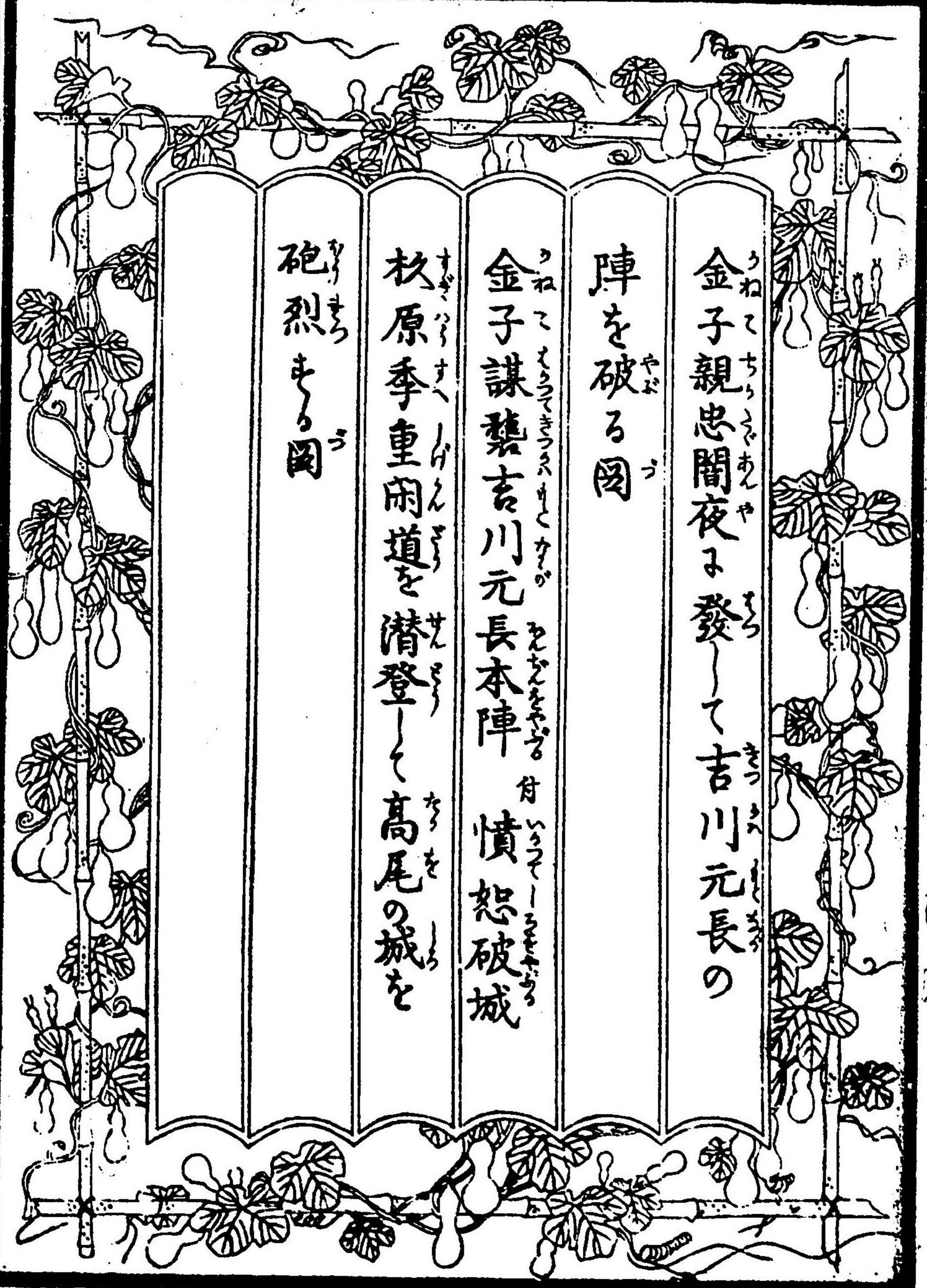
金子親忠間夜に發して吉川元長の

陣を破る圖

金子謀藝吉川元長本陣 憤怒破城

秋原季重兩道を潜登して高尾の城を

砲烈する圖



繪本豊田勲切記八編卷之五

東京 櫻澤堂山 刪補

清正斜水津濱破徳居備屋 隆景渡海

崧として言まはれ維嶽あり。彼も天小極より。維嶽神代

降して甫と申とどせしめり。申と甫とい周の嶽ありと生

民の篇小吟じり。其周五も勝らんとも豊公の嶽言

して天小極て内大臣より。其嶽する甫と申とい。今南海

小渡登する。加茂清正あんぬべ。維嶽神を降すと乃人

あり。神ありとむんバ。返渡を得ること終ふま。き小。大悪

風波の海上と檣柏子結く推渉せし。当天ハ天正十三年。

五月三日の表のことなるま。忍又も辨ぬ如法署夜只叙

△又奥の山と俗に伊予の富士と

小舟進る波首のそ白く色ど。それさへ怒潮乃煙犯て罷ら
暴山の類るく小舟一々危や舷も裂んとむらり怪し
きて海士倅ハ活くる意味もせむ怖畏るるといふといえ
ども清正烈しく指揮しるま命をうけり根決底槽時
より煙を發し圍端急と乗裁り是より岸程ハ大
洋漂流として周防洋より港來猛風大磐石を抛るる小
舟あはれむ面と向べき術とも勿やり。然ども大機到急の
清正船行急小艇を踏み。指南車と執て行方と考へ正南と
略と視決るところ小舟不思儀あり東南の天小電籠
と閃き跡まば電光のうち小清正同疾く伊豫の小富士
祝得り。磁石小合せり料理されば是正南小座しとる

山あり。彼山よりして地理と度まば。我今船と當的る。水津
の渡ハ東小筋より其ハ櫓と燃めと暖なり。自ら權と推
整し。突然として乗裁り。茲小隊列の各津濱ある。海邊
と圍めり。徳井刑部一行ハ。三子隊務の兵士ともつて
各船一百條艘と連れ船の面ハ大砲小砲と羅並べ寸隙の
虚もあはせむ。まの陸ハ三甲條百嚴し陣營成居
列ね。それより六町程と隔て。洞湖の故ハ五十載内通
同各庫見せり。三子五百條艘と從へ徳井刑部が扶助と
す。備松山の城中ハ。久武内益助と大将として栗山將
監業名方御方船つと首。鉅強の名士五子隊人其より海辺
の八箇城柴尾帆柱金部て。堅固し守る。不相ハ三國子威

我輩もろくろの孫権が軍部も新やと許り察せらるる
 り。時小奴の守將徳居刑部。今日の風波の最暴らまは。新
 てハ敵も進来るま。船中不在で激波のこめ。強て疲我
 恙も益ふ。請率不休息させべ。恙く狗廻して。船不
 ハ碇を多く卸させ。縁燭あま。燃させらる。金陸上
 の陣不還せて。累日守宰の疲勞を慰ち。してハ失あ。ん
 と。酒肴減少。祝へ。筋骨を補ひ在。夕陽不返。べ
 ハ風返ハま。強く死て海。清士難平。す。で
 心と容。思の舟。酒と。若も。新。し
 り。浩る。不。加。計。正。難。暴。難。乗。通。
 奥井初海の際と。水津濱。進。不。彼。敵。の

陣不。船方の防隊あり。火あ。燃。と。因
 きて。舟。不。其。進。目的。得。燃。や。燃。今
 短。努。怠。る。と。大。將。づ。と。息。を。も
 次。せ。提。起。る。不。強。不。清。正。の。神。忠。不。や。秀。右。公。乃
 幸福。不。や。三十艘の艦。一。艘。も。つ。が。あ。く。三。が。濱。の
 破。不。不。り。然。ハ。船。ハ。返。て。徳。居。が。船。不。人。も。あ。る
 是。バ。自。方。の。船。ハ。艦。と。卸。して。保。ひ。来。海。士。率。不。去。ま
 守。ら。せ。敵。の。岸。不。務。あ。る。船。と。恙。く。あ。ら。り。
 或。ハ。底。不。船。と。あ。け。四。角。八。面。不。斬。て。廻。ま。ど。不。立。敵。も。あ
 ら。ざ。ま。一。度。不。陸。へ。狂。揚。り。狼。狽。強。く。番。名。残。追。逼。く。破
 僵。徳。居。刑。部。が。陣。不。推。進。せ。一。万。餘。人。異。口。同。声。不。謀。と

吐と揚させり。茶海に响返りて殺しあんど。さうぞう
 ふー。然る小姓隊の守將。徳后刑部一行ハ武勇百人
 不乗。ゆるゆゑ元配これと標出。最も大木ノ殺不あそ
 バ。運旁と守らせり。と長考。系部が運の傾くゆゑ不
 や。今清正がゆゑ不攸らむ。のころむ陸地不乗後。時不
 加。分先斜の勇士飯田覚兵衛。本儀を丈木村又藤井
 上大九郎。悪鬼の係。不激音。陣屋の柵と踏破り。近
 傍軍と踏殺し。或ハ搏て人礮。西より東へ攻む。運個
 く不劣るふと。加。後。法。名。系。斎。後。立。本。能。平。次。赤。星。右。良
 名。系。末。より。西へ接する。中。不。大。將。法。正。ハ。藤。本。の。名。旗
 接合より。突くと。推出させ。徳后が陣の脈不廻りて。

我。不。續。て。棄。入。と。凜。然。と。し。て。繞。奔。ま。る。至。計。匠。が。お。扮。ハ。重
 系。織。不。中。一。段。と。白。く。攸。せ。し。禮。將。若。末。の。小。觀。鞍。不。長。三。尺。と
 の。大。彌。彌。の。警。首。不。平。丁。と。推。出。徳。后。刑。部。が。五。子。條。終
 の。群。隈。紀。と。正。中。へ。旋。風。の。如。く。襍。て。投。り。右。不。倒。し。左。不
 將。一。或。ハ。珍。玉。符。徹。し。踏。不。惹。て。踏。刺。せ。ハ。徳。の。鼻。も。と
 跑。て。飛。し。若。野。後。隱。虚。社。実。末。清。正。が。身。ハ。さ。さ。が。く。不。覺
 光。石。火。不。や。あ。く。ん。く。怪。し。む。む。む。の。頭。戦。不。徳。后。が
 軍。名。雅。あ。ら。く。陣。と。向。べ。き。葉。も。あ。く。蹟。く。不。あ。ら。く。攸
 走。走。此。時。灰。く。お。ハ。曉。て。自。他。の。相。色。も。分。り。り。ゆ。ゆ。
 加。後。の。勇。士。ハ。ま。ま。と。繞。る。運。隊。の。守。將。と。接。投。ら。ん。と。

先と競ふて追記ける。これがとめ小徳居刑部一巻も逃得
 だ。洞湖とあて逃りるありあり。浅緑緘の大體不
 龜の五重盛これ小黄金の籠と面標とせて徳首不
 全の籠の當標と脊不きく輝く。轉先の約と跳らせつ
 も。顔るく自方と後目不完成取て返して大音揚。こまハ
 徳居刑部が甥ありり。同苗九良方弟の初武あり。年ハ
 廿不满むといふも。約武年三十九歳ふして。徳力ハ二十五人不倍
 せり。對敵不逞なうん。清正勝負と決まべいと号り
 惹て擲て返來と。主計既荒余と笑ひ。温存款の取作らふ。
 望とあはバ清正ガ。陰串焙と餐をんを來や鷹と一喝叫
 ぶと。突る際もあはせむ。九齋方弟つが太壯と血らう

活く鶴き。滄玉ふして三四回逃行故中へ抛投り是バ。遠猛
 憤不踐兵車。若び顔晒こととも得せむ。右備左側不天足
 地首。洞湖の方へ逃去り是バ。清正軍ハこれまであり
 と。還法探吹せて法勢と扱め。襲取くる故陣と君有とて
 破損と補復自軍と爰不傍集をせ。釋水津濱ふハ。敵隊
 とまびびく固めさせ。然して怒怒首級を算まは是六百
 條級諸士の軍勞を賞する。取へ小早川隆宗も。怒なく
 水津濱不恙なま。早速清正ガ陣不來り。左兼つ督恭
 しく威儀を整して。礼と施し。發不清正ガ遠邁の武功。凡
 慮の遠ふところふあはむ。隆宗本とく。趣入り。是ぞ
 四國平治の兆兆。唯久足下の右不出る。功將ありとも

加藤清正
伊豫の三濱
渡
松井刑部
陣と斬
顔



豊臣
時

おもあへむ唯此上へ之針既清軍号令の采幣と孝乃士
ともく先陣の令と兼させ玉たるべしと孫運祥譲り
るふぞ清正も軀と譲り嘆るふ分あり褒めくま。運遭渡
海の斜功おどり君侍が功あしんや。食量主君の武徳不
校まじり。侍侍响隊も是下の方も失あくして後得こと
返くも飲し。去来や凱歌の兆と驚せん。大酒宴哉
ぞ催しり。

清正與隆系同派攻洞湖 謀擒倭將

酒ハ程一。名ノ如一。名ハ平日も用ひざるべし。一日も
使へざんべあるべし。酒ハ平日も飲ざるべし。一度飲
で酔むんへあるべし。酒ハ平日も飲ざるべし。一度飲

愁魔降得むなど。さしと挽さむん。軍威と補長を
べき。物最も酒不知べし。清正系不宴と関くへ。亦其の
理と會むおやあしん。然バ酔真逸ある時境。清正脱し産
中と祝鏡し。雅うある忠信をもて君と懐たり。耻と忍ぶ
者ありやと。細もいまさ終らざる。飯田老兵清進と出主
君の所為とある。天下の人小ぬらるとも。なごり
恥くし。ういべき。故と致るの謀針もいやと。君不清正
續不忠信あり。明日洞湖の故と歎き。破らんとまじり。分
計こそ。汝ともつ。調ふべしと。隆系が耳ふ口傍。略
と吟く。酒席と辞し。明日の洞湖攻とを準備不途びぬ。

曉まば五月五日不し。端午の佳儀甲冑の采不これ代
 祝し。然し分初とお定む。まづ今日の先陣へ飯田覚
 兵衛。表本俊右丈。其隊の強兵三百餘騎。二陣へ本村又
 藤井上大九郎。これも全トく三百餘騎。三陣へ富後立本
 能平次三百餘人。四陣へ大將之針江清正遊軍として一
 子餘騎。後陣へ赤里右良兵衛。庄林隼人。又百餘騎。ま
 と加茂清兵衛と將として。又子餘人と後をせ。これ不陸
 宗の陣代。金田安右兼つがみ子餘人とお副。松山。洞。郎。の中
 間。ある。森伏谷と操断らせし。是松山より加勢して洞
 湖の救をよさんと。此地不おひて食止させんと。一万餘
 騎不し。壓守させ。佐又背逆の大將不し。小早川左兼門

督陸宗。送。男。不。向。ふ。先。陣。不。し。井。上。方。左。兼。先。又。百。餘。騎。二。陣
 へ古志。清。右。兼。つ。三。百。餘。騎。三。陣。へ。柱。五。郎。左。兼。つ。三。百。餘。騎
 四。陣。へ。陸。宗。が。旗。本。勢。一。万。餘。騎。後。陣。へ。綿。井。権。内。兵。衛。又
 百。餘。騎。ま。づ。と。石。川。八。郎。左。兼。つ。野。上。守。右。清。つ。不。二。子。餘。人
 の。兵。を。授。り。て。西。伊。孫。大。津。道。を。取。断。せ。し。り。初。の。如。く。分
 部。を。定。め。又。月。又。日。の。如。く。上。刻。加。茂。の。先。陣。飯。田。覚。兵。衛。表
 本。儀。右。丈。が。三。百。餘。騎。楠。竹。策。と。突。起。て。敵。を。佐。て。攻。登
 る。城。將。五。十。藏。德。井。の。兩。勇。斯。と。突。る。より。福。平。不。指。揮
 不。し。大。木。大。石。と。結。落。し。弓。矢。銃。と。雨。雹。の。如。く。散。く。不
 敵。發。し。乃。是。に。先。不。進。し。飯。田。が。兵。士。將。某。倒。不。曰。又
 十。人。營。僵。さ。せ。て。隱。ふ。と。ころ。と。得。し。り。や。兵。率。奪。い。ど。せ。と。

城門城と推開き。五十藏内匠又百余騎不て擧出。飯田
本不標合火煙と發して樓下。樓上る。それが中よ
り系糸の體不。同ト名の令の獅噓の面標おくる盛と云
。烏軍の肥る馬不。根磨の鞍往白地不赤鬼と画する。
大馬標と云く指二同様の陰往長不推孝。正斜不進て
大音あげ。これハ四國不。名と赤鬼と拳稱されくる。根念
九良名勝盛刻ナあり。吾持陰の調味と。受て試よやと呼も
りあぐ。覺念系目的て柳菴る。進名ハ預て計りしこと
也急繞不逃て逃出まを姫念。五十藏いづくまでもと。暮
地不進菴る加後が二陣本村又益井上大九帝交代つて
戦ひ。これハ樞をぬ相不。容セウケ馬と返して還行

と勝不棄くる五十藏内匠馬跳らせて逃出ま。戎弟兵陣と
し止り。今當城不向ふくる。加後小早川が兩將ハ武名結
どき勇士ナあり。疎忽不長逐し。あべべく。止り五人と
練むとども。少もこれと聆容む。清正隆宗鬼神ももセ
よ。累るべき故不あり。遠國と如さ。逐逼て。何万條騎
ありと云も。南海の波不逐投と。慶不して容まべきぞと。
大鳴まらること雷の像く。先不進り。姫念不。考ら。もの
不十藏内匠樓記と。逐來る。程歇て城名と念の隨不。勾引
憑セ。時分ハより。と大將清正快より堆き丘不在りて。暗号
の能と。城と揚ま。預て伏。左右の谷際。深林の樹同上
り。當後立本。能平治三百余騎。不。發記。敵と揚る不。隨

ふく崩走しける。飯田本忽然として孫也と整し。火練
 論の如く盛返を。姫念九良名清。倣損し。とりと取てうへ
 さんと身とあせま。日本無雙の清正が。櫛小釋く。練磨
 の勇士。進退後横殊不懋。秘力を極め。術と彈。烈
 然として攻る。鬼と呼ま。姫念も奮威。辱て分僅
 へたや。後兵大軍。死な。自身も殺せ。不為瘡と承り。
 いとく。危ふり。り。ぐ。小刻谷際。林中。不還入り。幸くも
 息を次在。り。遠响。不既。五十藏も。同。ト。く。清正が。網罟不
 羅ら。遊る。途。なく。死憤と。癸。く。破。ぐ。も。棚。ぐ。も。突。ら。ば
 こ。建。年。秒。く。撃。殘。也。内。通。も。今。ハ。殺。死。と。令。召。と。覺。し。
 覺と。從。で。大。地。不。抛。弃。群。列。起。る。故。中。へ。怒。風。の。像。く。叫

て。純。投。東。進。南。還。西。去。北。來。突。く。と。し。て。横。不。紐。奮。く。と。し。て
 縱。小。純。猛。威。の。瀝。り。殺。ふ。不。木。村。又。藏。本。倣。右。支。友。右。上
 り。棚。て。菟。り。馬。の。太。腹。と。彌。布。じ。不。五。十。藏。馬。上。不。堪。得。む。鞍
 と。離。て。撞。と。墜。ると。本。村。本。捕。て。壓。え。る。も。腹。も。不。ぞ。御
 くる。斯。も。知。む。姫。念。九。良。名。清。一。息。次。で。亦。存。び。突。癸。し
 くる。機。會。こ。そ。あ。ま。五。十。藏。内。通。と。活。捕。り。海。も。借。不。降。糸。せ。よ。と。大
 聲。よ。姫。念。城。將。内。通。と。活。捕。り。海。も。借。不。降。糸。せ。よ。と。大
 音。声。不。呼。ち。ると。九。良。名。清。盛。烈。見。て。發。き。且。憤。怒。し。て。槍
 綽。整。し。や。と。ま。五。十。藏。と。操。ま。べ。ま。り。返。せ。房。せ。と。叫。び。正
 一。門。地。不。擲。菟。る。と。清。正。が。名。士。ハ。預。て。より。針。役。ら。し。綽
 不。ま。ば。活。投。の。内。通。と。擊。死。ま。ぐ。く。續。く。不。あ。つ。く。逃。出。ま

日本書紀卷之五

と適一ハセドと据合九郎名清正意不まつて退菟一ハ懐
 も殺らむ愕然と深空不ぞ臨る馬も人も畜一不上下
 へと拵れところと準備の拘索律兇も卒く不犯て肢甲臙
 痛み怒掛く若もなく引揚二重て索と掛り其外逃散
 城卒と或ハ活捕或ハ拵提喊揚て統然と本陣當て退揚
 たり。依又洞湖の城中ハ内通九郎名清突出してより。次
 第不矢叫結の声際遠不ありて聆分たねバ危ヤ自方の
 軍勢ハ他軍の計儀不臨る。朽憾さよと五十益名庫ハ
 百餘誘不て突出さんと城門迫く進む取ハ放軍の彼年逃
 返て。兩將款不活提き一と若よりりる。名庫と親徳居
 刑動も警偵あり。送上ハ幾ふとも。勿く軍不預あるまド。

一在本國へ急使と達。後逼と兼て接戦をへ一と加勢と免
 る。飛使組馬雪花の飛が如くあり。斯て亦加後を計既法
 正ハ。結軍を收めて本陣と威相凜くと調粧をせ。武器おご
 そり不飾立然して五十藏据合と。使率不令ドて警いど
 させ。清正とづり下紀て。二將の郷と放解散。上座不緒ト
 坐一。懸懸不洞と怒め。乃士ハ勿地内府秀吉の家臣加後を
 針既法正あり。運遭君の陣代と紫り。運不不來りて。水
 津濱と取るのそあうむ。是下城獲一こと。單不主君の幸
 福不頼るところ。怖くバ是下達不。一言ともて。皇容人怒と
 結めて。終一めまべ一。开も君君の武徳。つること。枝葉不
 肩と雙ぶる者あり。依三公の職不隣りて。天子と衛護一

豊臣譜ハ續巻之五

一日斥時も忠信仁義を捨ることなく。改道の行車。日月より明白なれば。猶侯万民帰服せむること。万水の流さく大海に投が如し。此よりつて款せむる軍ハ七び取むる族ハ衆ふ。然ども。原末君君ハ征伐と好む。あふふあふむ。仁義と先んず。帰服せんこと。我欲し。あへば。先達石田三成ともて。糧便の濟不豫ありぬ。遠征と得と思慮せしむ。一遭元親と殊得せしめ。内府へ帰後なさしむる。ふおひてハ。本領安途お遠あるまじ。至人と若返り導くこと。是忠信乃職分なむ。むや。長考我部の家名ともて。相續せむるも。破滅せむるも。唯只是下達の悟惑ふあり。つぐは。浅取て若とむる。款何を以捨て。若しとむる。款心と鎮て返答あは

と理とを。一。遠征正しと述はむ。五十載。非舎始て。碎の醒る如く。帰後的心と生じ。ける。我氣凛然とる。勇士なま。ま。小刻の程沈吟す。二人廻を尋げて。法正より。ち。向ひ。つ。是の道。ふも。主君の。とめと。ある。う。う。ハ。其。理。と。備。不。義。所。忠。義。の。道。不。愾。ひ。な。ま。バ。縱。令。運。身。ハ。万。人。の。と。め。不。辱。め。ら。る。ま。ば。と。て。此。も。厭。ふ。律。久。あ。る。べ。き。情。望。ハ。今。一。應。教。示。と。受。ん。と。り。ふ。不。清。正。且。下。今。より。考。若。公。の。所。自。方。不。属。し。む。い。洞。湖。の。城。不。残。り。と。る。德。居。刑。部。あ。く。び。不。舍。弟。兵。率。伐。も。つ。く。勅。て。自。方。不。帰。後。せしめ。よ。然。ま。る。ふ。お。ひ。て。ハ。長。考。我。部。元。親。い。ろ。あ。る。子。不。遠。ぶ。とも。是。下。侍。が。功。不。愛。て。土。佐。一。國。ハ。相。遠。あ。く。内。府。へ。願。ふ。て。安。置。べし。不。屑。な。ま。ま。と。も。

遠清正天下不信義と失ふことあり。事不望よく決断の
 爲きハ智者の望ざる不して疑除きハ信の爲き不周るも
 のありと。理非分明不説出して山とも勅と委否不五十
 藏姫会おちひ不驚き。俺們心神審悉不して真理と察得
 ざりし。今清正ハ明彙の一を裁もて。その理裁減る。吾侪
 の云礼と赦させ玉へ。皇君元祀の性質として。刀劔首不
 臨むといへども。揺がざること大磐石の條。是下の行と
 疑不ハあらずされども。天地伝盟の誓信と誓承。その人
 是下の命不隨ひ。事と料理まをさんといふ。清正听て大
 不歎び。即地天神地祇不誓て。起登伐記傳。誓信と印五
 十藏内不採。一は是ハ。兩將忽地心裁決。倅使者侪が

後居ある。野田倅之助も活捉られ。清本陣不あり。是
 ば。渠裁招うせ玉へとして。倅之助とよび。ちりづけ。内返まづら
 ら書翰裁去。了。野田ともつ。使者として。洞湖の
 城へ遣を。一たり。

清正使洞湖四將籌久武 彦 效松山勢

智者ハ惑むば。して事行ふと。五十藏内返姫会九良糸
 清。忽地思慮と決意して。清正が洞不隨ひ。野田倅之助裁使
 をして。洞湖の城不到ら。む。五十藏兵庫併り。おら。野
 田と呼容對面ま。る不。倅之助佐士裁遠ざけさせ。襟底よ
 り書翰取出傳。をともて。述。り。是。ハ。名庫小刻沈吟。一。つ。
 侪もさても。舍兄裁た。ト。め。姫会が。取存。懐。も。う。り。ぬ。こと

小あん。徳居刑部とも評議して。いりふも料理まどをべら
 ば。伊之助暫く休置せよとて刑部を招き。書翰の旨と
 豫交を時不刑部名庫不暫ひ。即地不中と決断するハ
 鳥辭がまゝふハ。給由せども。今秀右の陣取不款せん
 する軍ハ。際も日本不ハあり。べし。斯いふ時ハ。主君と賣
 水は演の合戦も。おのまはと。給と取らる。やう不懐さうら
 知らねども。勿くもつゝ。然不あゝむ。吾頼てより。察微を
 する。羽柴と。痛と突合時ハ。主君の勢絶あさん。こと。後不
 と照さ。如し。大切ある。長為家部。の齋家と。さ。不減
 する。唯今。傑不。不伝せ。車と。做ま。ハ。良將の。忌と。ころ。あり。
 何ハ。底も。あ。是。内。函。取。分。命。不。唯。ひ。足。下。ハ。清。正。が。陣。不。る。

り。舎兄が。取存の。量と。給。其。上。真。利。不。極。を。ば。死。と。際
 する。とも。運。う。ら。む。然。ハ。お。お。さ。む。や。と。愈。一。ら。る。不。ぞ。各
 庫。助。も。給。不。も。と。懐。ひ。刑。部。を。城。不。留。守。あ。さ。し。め。野。田。一
 舟。不。洞。淵。と。出。る。清。正。の。陣。不。味。く。る。と。主。計。取。ハ。それ。と
 給。より。陣。門。ま。で。出。迎。え。教。礼。厚。く。對。面。あ。し。然。し。て
 内。函。と。對。面。あ。さ。し。め。兄。の。口。自。取。服。の。件。と。勅。め。さ。す。る
 不。主。君。の。し。め。の。忠。言。あ。さ。し。め。あ。後。不。途。な。げ。即。地。不。後。受
 一。再。び。洞。淵。不。立。降。徳。居。刑。部。不。傳。軍。を。刑。部。原。來。の。ぞ
 む。と。ころ。心。中。悦。ば。し。し。こ。ね。不。同。意。ま。す。こ。ね。不。因。て。内。函。取
 ま。ま。お。ち。清。正。へ。書。投。り。ま。す。主。計。取。大。不。缺。び。送。上。と。て
 も。足。下。傳。と。執。疑。ま。す。不。ハ。あ。く。さ。さ。む。と。人。質。を。も。て。お。様。さ

るべし。是軍中の法則なきは休こと哉。將ざる所ありとて。乳婦小太刀一口と名庫小籠ふ名庫治定再度洞湖へ左。帰刑形小符符と呂豫一。老人妻等三十餘人と法正の陣。小送りり。法正等て田將の軍旗小早川隆景小達得させ。次小これらの一部始終と。泉公博小おたさる。内府の所陣へ臣伸せり。儲又加後法正へ小早川と親として。今度降糸の法將を集め。乃士一箇の謀計あり。法將の言小稱ふやいなや。給てもつ。狸遊と別せよ。迄小後くる後略と謂へ。五十歳兄弟徳后姫会これと洞湖小牟城させ迎小銃あり名銃と撃くや。機と除き一矢と射させ。同士軍と発むべし。然して使者と松山小遣たし。久武

内藏助小後逼とせさせ。自軍執断の勢。松山の勢。松山小早川隆景の勢。合戦の最中あるところへ。洞湖の二將二個へ城小残留り。二個へ城と推発し。自方と接で攻むべし。其時小早川の法軍勢。員と弾して洞湖勢の後陣。茂遮て攻投せよ。哨亦洞湖小池菟り。城の四面小火を放ち。落城の相成もて。松山勢小示さるべし。然して后小隆景が勢と。哨方の勢と一隊小合せ。松山洞湖の勢の後面。云二云三小樓起べし。其時洞湖の兩將へ。松山小早川隆景の勢。或へ我ひ或へ還き。松山の城小返投らば。俺們程も城を圍で。攻る虚と窺て。火の発と熾内より。頑て発らるべし。其中小各秘術と尽す。奮激突戦を



るものあり。大將久武内藏助と活捉らんこと易かり
 ぞ。一計と佐將達へ。いづもおちしめさるぞ。是れ
 亦良策あり。其軍配不随。と稟さる。と陸奥をドめい
 つとも借。獲小が妙あり。妙ありと感佩する。こと大
 陸奥あり。其軍配不随。と稟さる。と陸奥をドめい
 志井上脩。小うち嚮ひ。清正其年壯。小も玉らむ。然る小
 遠連の戦相。知謀とのひ武勇とのひ。驚入。とる。奉止あり。
 吾幼少。より武家。不育て。日。取軍。學。不。服。と。傾。け。精。神。と
 する。まこと。幾。なく。ぞ。や。斯。勵。め。ども。清。正。不。ハ。を。る。う。小。者
 たり。それ。不。精。化。を。計。取。ハ。民。向。より。出。る。合。戦。不。いと
 ま。な。り。と。ば。學。向。ま。ま。き。間。あ。る。ざ。ら。不。智。ハ。范。蠡。の。上。不。出

勇ハ下莊とも欺くべし。これ秀吉の言。福小ハ。おんぬべし
 ほど。獲。小。九。人。と。ハ。思。を。れ。む。と。返。さ。く。も。感。歎。し。て。け
 り。時。不。清。正。備。軍。不。指。揮。し。て。吾。延。小。あ。る。ば。長。身。我。弟
 本。國。より。後。逼。の。勢。の。来。らん。こと。必。定。あり。その。妨。拒
 の。あ。る。ぬ。うち。快。松。山。と。攻。陥。さん。と。隊。形。と。定。め。り。洞。湖。の
 城。と。云。二。云。三。不。攻。犯。る。然。る。ち。ど。小。松。山。の。城。中。不。ハ。久
 武。内。藏。助。長。身。と。大。將。と。し。て。五。子。余。人。對。懸。守。備。亦。の
 軍。配。不。ん。と。辱。し。嚴。重。不。依。在。と。る。取。へ。那。紫。の。大。軍。は
 海。して。己。水。津。溪。と。乘。取。ら。む。洞。湖。の。城。と。も。攻。犯。る。こと
 火。急。あり。る。延。引。せ。ば。落。城。さ。む。き。不。蚤。く。後。逼。編。る。を
 と。臣。仲。の。驅。馬。飛。雪。の。如。く。あ。る。ひ。ハ。拔。と。抛。る。不。似

久武長壽大不驚き。洞湖落城不遠びふへ。當隊も亦
 持守ぐ。後逼せむんばあるべり。馬場方良き。亦
 城と守らせ。久武内益助之づ。二子五百余騎の兵士と
 率。洞湖と當りて推出。這時大將清正ハ泡固と
 つふ小峯小登り。松山の方と多獲在る。今松山の
 城中より。後逼の勢の出る。城守て使番と来不弛らせ。松
 山の壁守不立。加後清各浦。全田安右清つが。當へ若知
 らせ。洞湖の方へも。暗号とあむ。清の計議の在とも知
 らせ。久武内益助が二子五百。激水の像く。推記。加後全田
 が。勸え。隊前へ混く。推進。戦と依りて。突。惹る。加後清
 各浦。稍。委。時。遠て。接。戦。あ。一。乃。が。遂。不。堪。足。せ。致。志。せ。

此時洞湖の城中より。時分ハ。一。と。五十歳兄弟。二子余騎。不
 て推出。正一門地。不弛。来て。加後清各浦。全田安右。清つが。記
 ころ。五子。餘。騎。と。中。小。包。で。接。戦。し。一。乃。半。率。留。止。する。軍
 の。あ。ら。ば。こそ。右。性。た。性。不。散。亂。も。五。十。歳。兄。弟。漸。く。久。武。一
 弛。近。き。蚤。々。清。加。勢。り。と。ト。け。あ。一。返。上。ハ。洞。湖。松。山。一。隊。不
 ありて。加後小早川と折。新。ま。べ。一。と。二。層。も。乾。以。際。不。其。勢
 緩。方。とも。無。さ。ね。ど。勅。然。と。一。て。耳。下。不。其。の。声。振。ひ。お。り。
 小早川の軍勢。雲霞の如く。四角。八。面。不。發。起。喚。叫。で。響。て。驚
 る。這時。加。後。清。各。浦。も。全。田。一。奔。取。て。返。一。ま。ま。や。菟。ま。と。い
 ふ。あ。ど。こそ。あ。ま。標。程。の。勇。士。五。子。餘。人。陰。伏。控。て。奮。發。せ。こ
 是。が。と。め。不。土。佐。方。ハ。ま。こ。一。控。隊。の。態。あり。乃。久。武。意

の大勇士五十騎をくりり獲あへて。小早川の横際より。馬
 行小次で投縦横を礎小薙とまは。返勇猛みや畏くりらん。
 まこ一怯で窮くり取小早川の勇兵官部五郎左衛門と
 号彘曰尺一寸の野太刀と折振激水烈火割木破竹猛威
 と奮ふく並とまは。小早川勢これ不気と得て。一豆去らむ
 攻戦ふ。浩る取小大将信正時こそ宣り色と暗号の煙烟
 と揚るや香や洞湖の城中。八方小燃沖る時境山風扇り
 まは。猛火煽くと烈燦して。天とも焦をくりあり。土佐
 勢これと見るよりも。斬るまて小警備ふ。総勢一渡
 小冨紀上下と矢い前後小途惑ひ。噪くとして右旗左例
 ま。加後小早川の雨勢へ得くりや獲くり。返國と脱く。大軍

ハ十分勝るぞ。四國謬言の各率ハ一個も残さむ。慶おせ
 よ。くりまくと声くふ。先と競あむ。推出と相ハ須弥の岩薩
 るが如く。蒼海の沸出小似て。踏止るべき方術も知らむ。塔
 て五十歳兄弟ハ。途次失ふ。風信ふく。久武の陣へ薙薙
 るふ。方僅ハ一足軍中も堪らむ。大紋軍とあつそ。礼立
 りまは。了得小猛き肉巻助も。落瘡曰又ケ取被りて。いと
 く。危ふくりらん。と。五十歳兄弟執てうへ。返来る故
 と拒抗らむ。返際小久武勢。跡されくり。自方と現れ。松
 山の城小退入り。これ小継て五十歳勢も。遠く城小延
 込らむ。加後小早川の法軍勢。凜然として。続記凱歌と
 三度喚。城より二町退て陣と結ひ。法士の軍勢とおあひふ

慰め。恭び内府へ。務し。注伸小迄を。まじり

金子謀。藝者川元長本陣。憤怒被破

北戦。雪深き山。不懸。といふ。おあり。素一塊の。振

と。碓魚の如く。魁勢。まじり。山。郵谷。里。盛。利。さう。こ

へり。今。清正。が。攻。る。所。も。彼。等。魁。の。奔。る。不。育。ト。一。遭。水。津

演。と。放。ま。る。勢。威。特。ト。来。り。て。洞。湖。松。山。と。抜。破。る。こ。と。魁

勢。不。も。程。増。ん。ぬ。べ。い。然。布。ど。不。松。山。の。城。中。お。ハ。久。武。五

十。歳。卒。う。ト。て。自。方。僅。不。撃。残。さ。れ。城。不。逃。入。監。検。ま。れ。ば。

瘠。と。負。く。る。率。八。百。餘。人。殺。死。九。百。二。十。八。人。餘。不。く。烈。

ま。合。戦。あり。と。て。了。得。久。武。長。壽。も。傷。勝。ま。る。こ。と。一。様。あ。り

む。今日。五。十。歳。微。せ。ば。殆。危。ふ。り。り。と。て。兄。弟。の。案。と。志

を。く。賞。譽。し。此。等。の。事。と。大。西。あ。る。大。西。へ。出。陣。ま。元。親。が

方。へ。注。伸。ま。大。將。元。親。斯。と。驗。よ。り。も。勃。然。と。し。て。憤

怒。と。発。し。切。あ。き。奴。率。が。拳。止。り。な。遠。上。ハ。吾。出。馬。し。て。

年。末。復。え。し。本。方。系。部。が。綱。と。も。つ。く。加。后。小。早。川。が。純

柔。率。不。同。成。醒。さ。し。て。断。魂。ら。せん。各。々。速。不。准。備。と。せ。上

と。声。暴。く。し。指。揮。し。り。り。成。婦。子。信。純。進。と。出。父。の。所。腹

驗。不。然。こ。と。お。ハ。い。ども。運。遭。所。出。馬。し。る。こ。と。ハ。太。宜

し。う。ら。べ。う。い。は。父。今。豫。別。へ。所。出。馬。あ。つ。く。阿。波。渡。破。へ。の

所。指。揮。ハ。誰。う。と。れ。戦。つ。ら。ま。つ。る。べ。き。阿。波。の。敵。と。防。ぐ。べ

指揮と信する人なきと死に。自方の諸勢力落さん。
 自不脛ありとも後脱不。四五子の各戦場をくへ陣代と
 して後脱不到り。久武五十歳力と勤也。上方勢と没海
 せしめん。又河出馬の事不おひてハ。只願止まり玉ふべし。
 と練ゆりらみぞ元脱も。瞋と結めて出馬の事ハ。婿子伝
 脱みとれ残任也。本山將監石谷各初と副將として。を万
 條人と隨後とあさしめ。天正十三年六月三日。河大西と奮
 発し。後脱とあさしめて列行たり。それハ。周き益ふまう。
 吉川治初少補元長ハ。元長原居して。二万餘人と俱率あり。小
 早川の後逼として。五月廿八日の蚤天曉星のまご。嘩く頃
 天満浦へ急岸あり。金子傳各衆脱忠の凝守する。言尾

後及温泉の城不攻惹る。开も此金子親忠とつと者ハ。金子十
 部家忠が未察不して。河野通廣の老中あり。一が。血年
 長芳我初不帰後あり。今迄言尾不特凝守防禦の部也。代
 堅固不備へ自他の動靜と考在り。浩る不不注伸来り
 て。水津濱洞船ハ。故不破らま。今ハ。松山の一城も。危ふく見
 ゆると。驗りりも。然ハ。困道より。折発て。後浩とあさん
 准依の所へ。吉川元長二万餘騎不。あ城不向ふとまこ
 えりま。後逼ハ。あくと。それぐ。不。虎口と。と固めさ
 せ。柵鹿垣と。三重不結む。せ。進名。逐。と。後。菟。く。り。浩る
 不。不。吉川。が。先。陣。佐。く。木。三。部。方。集。つ。二。陣。ハ。山。取。九。方。集。門。
 三。陣。ハ。昂。地。吉。川。元。長。の。籠。本。勢。三。軍。合。せ。二。万。餘。騎。喫

声して攻登る城中ハ金子親忠預て侍方へ指揮と
 傳え故と申迫くし着て慶子あまをべーと鳴と結めて誓
 くり。右川元長城中の態と察て備ハ城兵聆畏して登
 逃遁するものありん其まや兵車乗込べーと宋幣う
 ち振指揮しける。原末富尾の山相ハ亂と立ちける如く不
 して。途固しといども険阻なきば半坂より上を登る小
 富石運相小後登り。城と得るとも登る小卒し進名ハ
 大將の軍令小懸まさき。富稜石疎小拖廻り。乗投らん
 と揮れところ城時分ハよりと城中小暗号の号銃响ら
 せと奔し。初止を教條の大綱一度小教乱るく水放せ
 へ。大象の像き巖石巨木雙伐顔て刮刺とく。百子の雲

の墜るが如く。頼神胸背の差別ハおろく。堅甲利兵ハ泥上
 り脆く。巖不嶺の教場せば血汐不溪の水溢して畏怖あん
 ど還消り。右川の隊伍亂る知と隙さば撃発急銃不
 進名ハよりでら面と向べき趨く小あつて故乱を時分ハ後
 ぞと城門とハ文字小推突き。金子が猛兵態答四新左門
 勝直系系織の大禮小赤熊の像き祀發と練指もつて前
 撃し。練ると緋てくしる小絞く。彌綱の馬小白黎噓せ。丈
 ハの鎧也。の標の三裨の檢と肩よりきく突出し。右川勢の
 難る中へ今叙もなきで櫛て投。これ小續て松松及冬末
 飯田傳方束つ。沢波七所を流。大カ云雙の勇士策屹然とし
 て奮發あし。罷ら練圍山の宿る像く。操小操て逐下

る。こまがとめふ吉川勢一遮も奉侍也。総頼とあつて逃
 下る。下る。下る。元長の危後。松原孫八郎季重。享年十九歳。小
 て。身の長六尺有一寸。これまぐて主人元長の教習とあつて
 守護しつるが。城急子。逐菴。乃のゆえ。只單騎。みく取て
 返す。十六夜。目の鏡の根。と。風車の後。く。揮。返。進。款。ハ
 馬。とも。人。とも。壓。ひ。た。く。減。多。擲。小。叩。立。難。敵。山。とも。抜
 うん。猛。勢。不。合。子。が。軍。兵。碎。易。ふ。長。遠。を。用。と。傳。兵。津
 指揮して。還。法。螺。吹。せ。結。く。と。言。尾。の。城。へ。退。投。り。り。元。長
 も。これ。と。幸。ふ。一。雲。を。り。り。退。て。山。後。痛。不。結。陣。ふ。一。
 運。遣。の。牧。軍。と。最。村。憾。こと。不。懐。ひ。送。上。ハ。再。戦。し。今。日
 の。耻。と。雪。ぐ。ん。もの。と。徳。士。不。向。ふ。く。稟。され。り。り。や。う。送。言

尾の城。墨。ハ。力。と。も。つ。く。攻。ぐ。一。斯。く。せ。よ。と。命。ど。り。り。小
 ぞ。隊。不。仕。不。大。將。の。籌。策。を。精。城。不。向。ふ。く。攻。る。態。と。ま。る
 も。あり。林。間。谷。底。不。伏。兵。ま。る。も。あり。て。兩。三。日。戦。る。一。日
 る。が。預。て。係。り。一。車。ま。ま。ま。今。ハ。怠。る。態。と。お。せ。送。偶。送
 角。の。材。陰。不。暑。と。巡。或。ハ。溪。川。不。踊。入。て。崖。の。末。不。遊。ぐ。も
 あり。表。ハ。初。交。の。敵。より。燎。と。寄。ふ。一。折。鼓。と。休。て。眼
 差。く。る。相。と。お。せ。十。分。不。敵。と。欺。き。り。れ。ハ。一。日。怒。谷。口。良
 左。衛。門。射。橋。不。む。て。進。兵。の。陣。中。と。那。方。送。方。と。視。也。一。守
 將。傳。兵。津。不。言。り。る。や。う。進。兵。の。陣。と。お。て。や。り。不。退。屈。の。態
 お。多。て。隊。伍。疎。漏。不。怠。く。り。侍。侍。今。宵。移。て。出。近。散。さ
 ん。ハ。り。り。不。ぞ。ふ。と。聆。て。合。子。も。射。橋。不。や。り。敵。陣。の。相。城

しく祝傲一。徳將と集て稟されり。吾故の統蹊
 と察る不。園形の相となまるといども。若川のこれ中國云
 双の名將を色バ。強不畏ろ一。き對敵あり。正しく歌録
 と後けしるあるべ一。敵の孫る尾不屬て。君まゝその外
 道哉謀るべ一と。熊谷口即左束つと將として。推ね後去
 系。飯田信左束つ不。二百餘人の強率を授け。腰名程を兼
 齋させ。持方の山より。衣掛越え。滝浪村を右に不
 て。若川が本陣不懸投べ一。大將元長ハ毆果せむとも。
 勝利十分あんぬべ一。退去時ハ速不せよ。是き一の軍秘
 ありと。徳士群率不つるまで。獲一。計後と孫まらせ。
 最をや。今宵も亥不迄。是バ。赤癸をよと。指揮一。乃

る不ぞ。距離の疆名二百餘人。名統後多抱持せ。人馬借不
 声と禁一。密くとして。推出せ。これ六月二日の夜。是
 巴。急白もこうぬ。真三圍。炬燵あり。是バ。路も分ぬ。夜預
 て。傳名。率不令。行先の路不白くと。槍と撒
 せ。より。是バ。星の光と地不棄ふて。苦もあ。困道哉
 推穿行思ひも。彼らぬ。若川が。本陣の。横際より。喊哉
 修り。名統と。敵寇。二三ヶ所。不火と。敵させ。是煙を。あいど
 より。面も。觸らむ。突てり。百名。子率不。當ると。さ。い。え
 ひ。薙を。掘伏。起。廻。是。バ。了。得。不。名と。得一。若川の。勇士と
 ちも。不。言と。誓。きて。喧。噪。ぎ。る。よ。檢。よ。と。右。横。左。横。不。途
 惑。ふ。城。令。子。堂。の。勇。士。率。得。る。ハ。右。と。斬。て。逆。る。中。み。の

豊田言ハ終卷之十

杉原季重
道と潜登
高尾の城と
炮烈せしむ



熊谷四良左衛門。例の丈八の長銃掲げ。明星の像を眼と
 睨り。大将元長を毆打て。名をせんと祝流をところ。一層
 多発戦外套子。金と銀との糸もて。水不慈姑と縁りや
 一ハ正一目的大将をめり。と。風虎の如く弛蕙り。山も
 崩る。大音発。それへ還く大将ハ右川治部少輔元長と
 見るハ曹ウ。より違ふ。背色我多まるハ鄙怯あり。斯
 云。响ハ金子伝兵衛。祝忠の自旗。おひて暴鬼神と稱せ
 らる。熊谷四良左衛門。勝直あり。見業せんと叫び起
 馬と跳せ。追蕙る。その疾きこと。石火。不富一。上
 り。熊谷。歩。立。右川元長。鶴。立。危。や。と
 響。由。る。人。の。前。不。記。塞。て。松。原。孫。八。郎。栗。を。大。鳴。一。声。

熊谷。不。突。て。蕙。ま。ば。右。川。勢。を。布。餘。の。三。十。條。人。奔。花。と。標
 て。拖。て。返。一。と。専。途。と。遮。え。り。運。响。守。將。金。子。傳。兵。衛。
 山下。不。火。の。發。の。熾。る。と。察。て。其。ハ。勢。出。を。ハ。今。ナ。ある。ぞ。と。故
 門。の。扉。と。颯。と。開。け。精。兵。擡。て。三。百。條。跨。長。炬。と。百。餘。を
 けり。先。不。進。す。や。て。送。路。と。照。一。暮。地。不。弛。卸。一。款。陣。迎
 く。ナ。あ。る。ま。り。不。被。松。炬。と。款。の。陣。中。へ。抛。入。る。金。子。傳。兵
 衛。正。斜。不。狼。狽。と。る。右。川。勢。と。百。裂。百。碎。子。突。万。刺。鑿。不
 せ。よ。と。追。起。こ。極。る。それ。さ。へ。ある。不。長。炬。の。抛。入。る
 火。ハ。陣。屋。不。燃。り。四。角。八。面。と。燒。發。ま。ば。背。方。より。ハ。熊
 谷。勢。吐。炮。の。像。く。抛。起。る。運。部。不。天。地。も。崩。る。と。わ。り。り。
 噢。叫。で。攻。急。一。く。右。川。勢。ハ。記。是。も。あ。く。右。性。尤。性。不。散

乱して後田の方へ還て行侍兵清軍震小賢乃れば長退兵
 用と自方と制し。孰歌揚て後くと。城中へこそ退入り。
 右川勢へ返くと。三十余町還て陣と取り。自方の兵の死
 と算ふまじ。一百五十餘人ふりて。瘡と負する軍二百余八
 元長遂然として眩不堪む。吾返次へ侍兵未と存亡有
 兵と決せむん。若び佐人小對面をます。蚤敷へ曉小迫
 づさしぞ。各軍を不徳くべし。馬小拍ま誘出を。我。校
 原孫八高禮と把て強止あり。返へ清軍の惑ひまふ。倭
 胆不敵と受あぐ。安法の軍へ底るふま。し。其。そ。や。自。方
 も十分小疲ま。ね。ば。計。儀。と。設。て。攻。入。侍。備。略。敵。の。困
 道と氣を奪へては。へ。新。般。この軍へいりふと。真。是。る。ふ

大将元長漸く瞋と推詰め。然らば汝が方術ともつ。困退
 より攻着あん。唯依とせよと指揮小随ひ小早川の陣小
 ありり。大砲十具と取傍て。六月三日の月落る頃これ
 我猛牛の背小負をせ。預て枚原が。藩。守。の。女。術。と。得。る
 駛率小海雀の駄助とつふ者あり。渠小命。して。言。尾。山
 の困退。我。蚤。くも探らせ置。り。り。ま。ば。彼。海。雀。と。導。路
 者として。一子條人と向せつ。も。大。將。右。川。元。長。ハ。言。尾
 の碑へ往勢と探出。し。背。方。の。首。尾。と。ま。ち。在。り。鳴
 吟。返。天。小。して。言。尾。の。城。の。果。滅。ま。る。初。小。至。り。一。小。や。
 彼。大。砲。と。荷。せ。る。牛。ハ。好。て。路。と。歩。む。小。よ。く。困。退。の。曲。折
 我。得。て。進。む。小。矣。あ。く。む。也。返。隊。の。首。將。枚。原。季。三。條

り不怪あや——懐おもひらまば踏ふみとよくく客きやくてゆるふ暖あたたか
 夜よと照てさんとして撒ま布ふ——る塩しほの残のこりて理まふ白しろくあり
 まば牛うしの性さがゆる天然てんぜんふ塩しほと嗜こめるおあるゆえふ塩しほの香か
 不ふ誘そきておのづと路ち戎じゆ進すすめるありき

えかんといふことくんこうきえちんまのどをえり
 繪本豊后勲四記八編卷之五了

197
90
254

197
20
254

